# カタチには理由(ワケ)がある(71)

Shape follows Function & Taste

## ～中島海軍双発戦闘機「月光」71 型(J1N)

［零戦との比較→］

中島飛行機の海軍双発戦闘機です。初飛行は 1941 年で、太平洋戦争開戦直前です。1930 年代後半から世界で双発戦闘機ブームが始まっていましたが、遅れて日本海軍も手に入れることができました。研究熱心な中島飛行機の機体らしく、ファウラーフラップや可動式の前縁スラットを採用し、失速特性を改善させることで、設計時、それなりの勝算があったのかもしれませんが、やはり単発戦闘機の敏捷性に適うはずもなく、結局、先輩の双発戦闘機たち、例えばドイツの Bf110、イタリアの Br88 と同じ道を辿りました。同一スケールの零戦と並べた写真を示しますが、月光は零戦に比べて二回りも大型の機体で、いくら馬力が二倍になったとしても(両者とも同じ栄エンジンを搭載)、零戦には勝てなかったでしょう。レベルの箱絵を見て、機首先端の透明窓が子供心に最大の謎で、ここが光って闇の中の敵機を照らすのかと想像していましたが、実際は整備の際の明かり窓とのことです。残念ｗ。

【模型について】

フジミ(Fujimi)製 1/72 のインジェクションキットです。同社は背中に段差の付いた型も含めて一連のバージョンを発売し、標準以上の出来です。主翼の前縁と後縁を切り離して、ファウラーフラップと前縁スラットを稼働状態に改造しています。（中川裕幸　2021 年 4 月，2023 年 4 月改定）